

三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ ＜円コース＞（毎月分配型）

愛称：スマートスター

追加型投信／海外／その他資産（バンクローン）

作成対象期間：2023年4月12日～2023年10月11日

第115期決算日：2023年5月11日 第118期決算日：2023年8月14日

第116期決算日：2023年6月12日 第119期決算日：2023年9月11日

第117期決算日：2023年7月11日 第120期決算日：2023年10月11日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、米ドル建てバンクローン、公社債等を高位に組み入れます。実質的な組入外貨建て資産については、投資を行う外国投資信託において米ドル売り、円買いの為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

第120期末（2023年10月11日）

基準価額 6,954円

純資産総額 1,725百万円

第115期～第120期

騰落率 +1.9%

分配金合計^(*) 90円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

(*) 当期間の合計分配金額です。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

MUFG 三菱UFJアセットマネジメント

東京都港区東新橋一丁目9番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  0120-151034

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

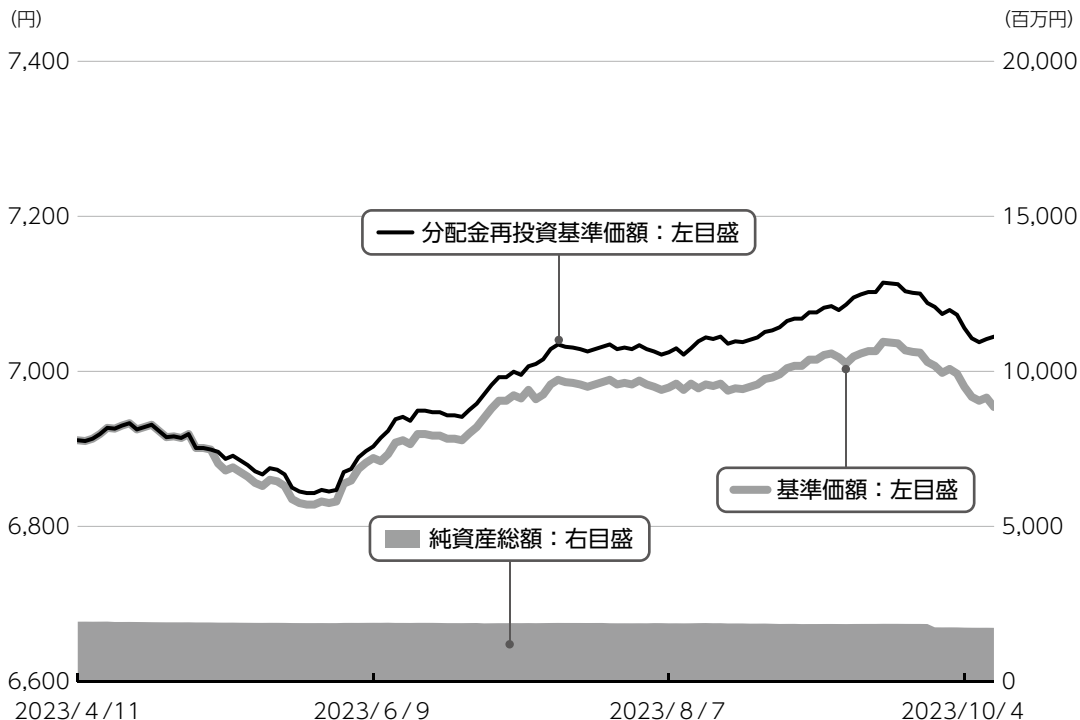
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

第115期～第120期：2023年4月12日～2023年10月11日

▶ 当作成期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第115期首	6,911円
第120期末	6,954円
既払分配金	90円
騰落率	1.9%

(分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ1.9% (分配金再投資ベース) の上昇となりました。

基準価額の変動要因

上昇要因

米国バンクローン (貸付債権) の利子収入を享受したこと。
米国バンクローン市況が上昇したこと。

下落要因

為替ヘッジによるコスト (金利差相当分の費用)
信託報酬

2023年4月12日～2023年10月11日

1万口当たりの費用明細

項目	第115期～第120期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	63	0.908	(a) 信託報酬 = 作成期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (作成期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(39)	(0.561)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(23)	(0.330)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.017)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.002	(b) その他費用 = 作成期中のその他費用 ÷ 作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	63	0.910	

作成期中の平均基準価額は、6,947円です。

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

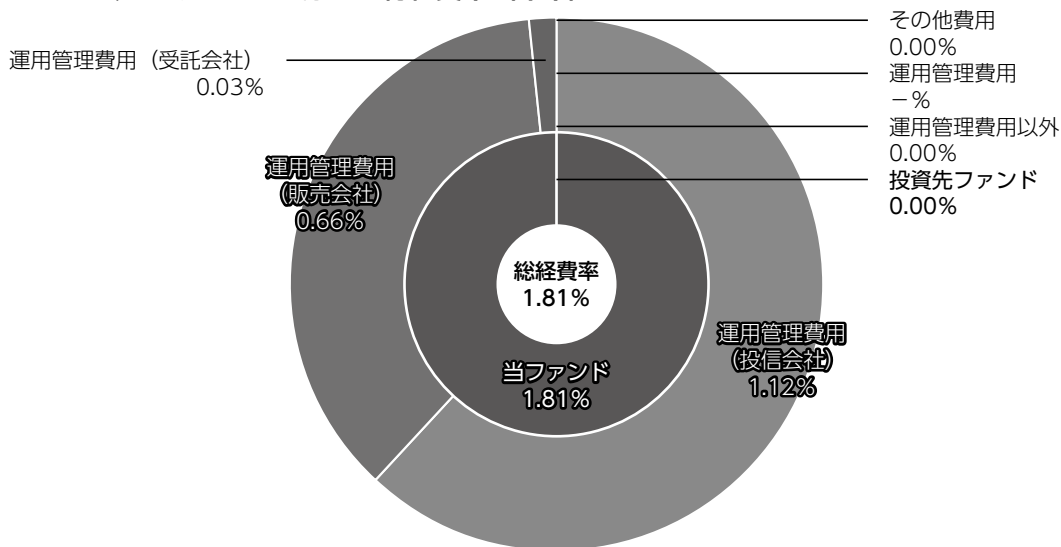
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成中の平均受益権口数に作成中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.81%**です。



総経費率 (①+②+③)	(%)	1.81
①当ファンドの費用の比率	(%)	1.81
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	—
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	(%)	0.00

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

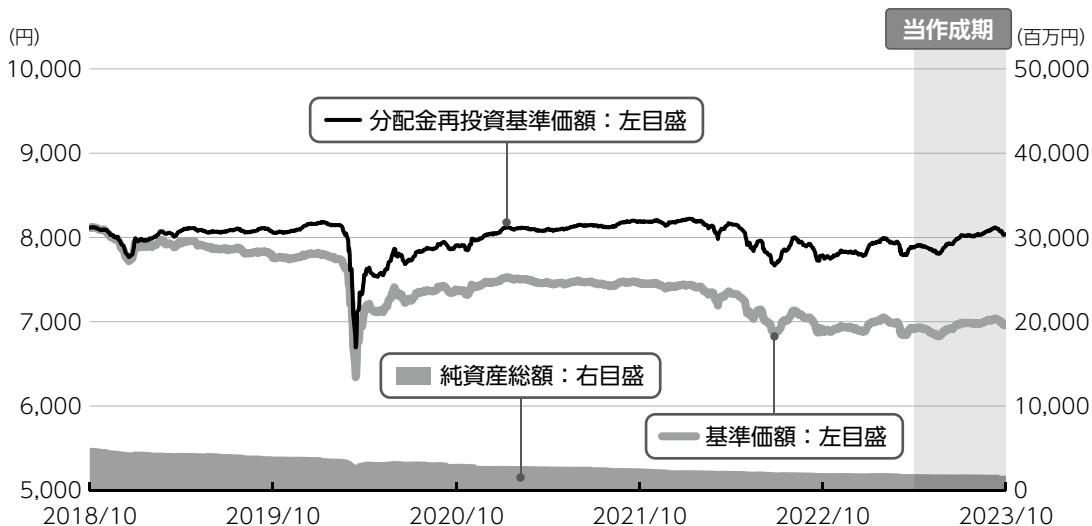
(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 入手し得る情報において含まれていない費用はありません。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2018年10月11日～2023年10月11日

最近5年間の基準価額等の推移について



※分配金再投資基準価額は、2018年10月11日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2018/10/11 期初	2019/10/11 決算日	2020/10/12 決算日	2021/10/11 決算日	2022/10/11 決算日	2023/10/11 決算日
基準価額 (円)	8,116	7,756	7,373	7,457	6,914	6,954
期間分配金合計 (税込み) (円)	-	300	240	180	180	180
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	-0.7	-1.8	3.6	-4.9	3.2
純資産総額 (百万円)	5,031	4,002	3,142	2,601	2,045	1,725

※ファンド年間騰落率は、収益分配金 (税込み) を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

第115期～第120期：2023年4月12日～2023年10月11日

投資環境について

▶ バンクローン市況

当期間を通じて見ると、米国バンクローン市況は上昇しました。

当期間の初めから2023年5月にかけては、米地方銀行の破綻を受けた銀行の貸出基準の厳格化等を背景に、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は拡大しました。スプレッドの拡大等がマイナス要因となったものの、利子収入の獲得等がプラス要因となり、米国バンクローン市況は概ね横ばいで推移しました。

その後は、米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ停止期待が高まった局面があったことや、良好な米企業決算等を背景に、米景気後退への警戒感が緩和したこと等がプラス要因となり、スプレッド

は縮小しました。スプレッドの縮小等を背景に米国バンクローン市況は上昇しました。

▶ 国内短期金融市場

無担保コール翌日物金利は0%を下回る水準で推移しました。

当期間の短期金融市場をみると、日銀は長短金利を操作目標として金融市場調整を行いました。コール・レート（無担保・翌日物）はマイナス圏で推移し、足下のコール・レートは-0.033%となりました。

当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<円コース> (毎月分配型)

当ファンドは、主として円建ての外国投資信託であるピムコ バミューダ バンクローン ファンド A - クラス Y (JPY) の投資信託証券への投資を行いました。また、マネー・マーケット・マザーファンド投資信託証券を一部組み入れた運用を行いました。

▶ ピムコ バミューダ バンクローン ファンド A - クラス Y (JPY)

米ドル建てバンクローン、公社債等を高位に組み入れました。

セクター配分戦略においては、医薬品セクター、建設セクター等を消極姿勢としました。一方で、テクノロジーセクター、ヘルスケアセクター等を積極姿勢としました。

保有外貨建て資産に対し、米ドル売り、

円買いの為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図る運用を行いました。

▶ マネー・マーケット・マザーファンド
コール・ローン等短期金融商品を活用し、
利子等収益の確保を図りました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第115期 2023年4月12日~ 2023年5月11日	第116期 2023年5月12日~ 2023年6月12日	第117期 2023年6月13日~ 2023年7月11日	第118期 2023年7月12日~ 2023年8月14日	第119期 2023年8月15日~ 2023年9月11日	第120期 2023年9月12日~ 2023年10月11日
当期分配金 (対基準価額比率)	15 (0.218%)	15 (0.217%)	15 (0.215%)	15 (0.215%)	15 (0.214%)	15 (0.215%)
当期の収益	7	10	15	11	14	5
当期の収益以外	7	4	-	3	0	9
翌期繰越分配対象額	480	476	477	474	474	464

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ 三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<円コース> (毎月分配型)

運用の基本方針にしたがって、引き続き円建て外国投資信託への投資を通じて米ドル建てバンクローン、公社債等を高位に組み入れた運用を行うほか、一部、マネー・マーケット・マザーファンド投資信託証券の組み入れを維持し、毎月の分配をめざしていく方針です。

▶ ピムコ バミューダ バンクローンファンド A - クラス Y (JPY)

米国については、最新の経済見通しにおいてFRB当局者らは2024年の米経済のソフトランディング(軟着陸)の達成に自信を深めていることが示唆されているものの、この見通しに対しては懐疑的にみています。歴史的には、長期にわたる金融引き締めが失業率の上昇と景気後退を招かずに終わることは非常にまれであり、利上げ開始時にインフレが高騰していた局面においては景気後退入りの確率がさらに高くなることが示されているためです。コロナショックがもたらしたサプライチェーン(供給網)の改善は引き続きインフレの緩和をもたらす一方、生産性が大幅に改善しない限り、労働市場のひっ迫と粘着的な賃金上昇圧力を背景

にインフレは高止まりする可能性が高いとみています。なお、FRBによる2023年内の追加利上げの可能性は排除できないものの、インフレ率の更なる鈍化を背景に利上げが停止される可能性をメインシナリオとして想定しています。

バンクローン市場においては、デフォルト(債務不履行)率が低位で推移するなどファンダメンタルズが改善してきたことはプラス材料となっています。一方で、銀行による融資姿勢の厳格化を背景に景気後退のリスクが高まっていることから、今後のデフォルト率は緩やかに上昇するとみております。

運用においてはリスクの取得には慎重な姿勢を維持しながら、投資妙味が高いセクターや銘柄を厳選して投資を行う方針です。

なお、保有外貨建て資産に対し、原則として、米ドル売り、円買いの為替ヘッジを行います。

▶ マネー・マーケット・マザーファンド

今後も日銀による金融緩和政策が継続すると想定されることから、短期金利は引き続き低位で推移すると予想しています。以上の見通しにより、コール・ローン等への投資を通じて、安定した収益の確保をめざした運用を行う方針です。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・委託会社の商号変更に対応するため、信託約款に所要の変更を行いました。
2023年10月1日より商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更しました。
(2023年10月1日)
- ・当該(米国バンクローンファンド)シリーズファンドの償還に伴い、償還ファンドの付表からの削除を行い、信託約款に所要の変更を行いました。(2023年10月7日)

▶ その他

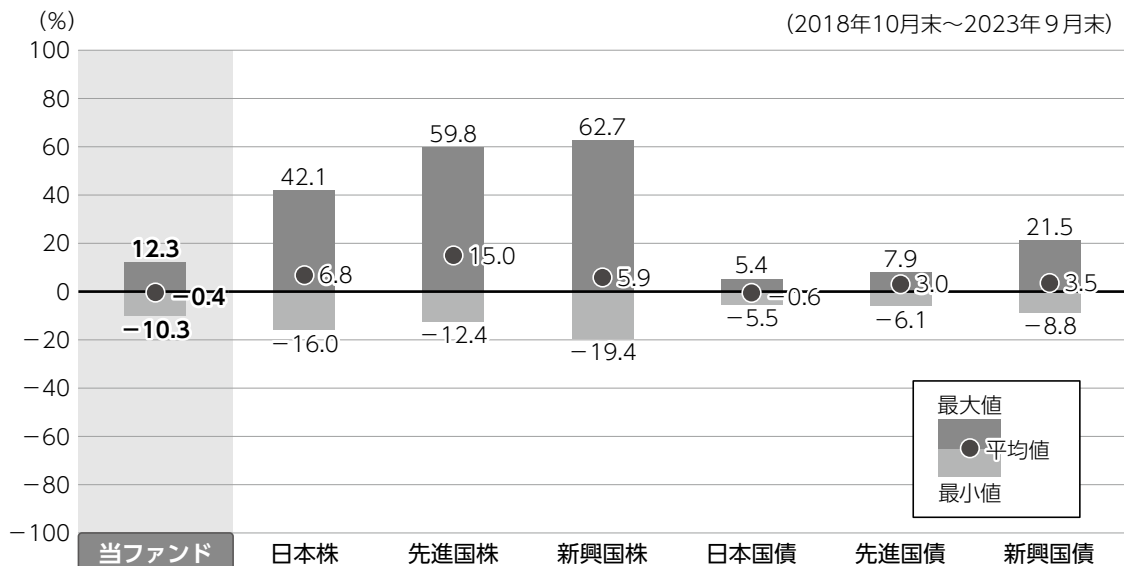
- ・該当事項はありません。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（バンクローン）
信託期間	2028年10月11日まで（2013年10月15日設定）
運用方針	主として円建ての外国投資信託であるピムコ バミューダ バンクローン ファンド A – クラス Y（JPY）の投資信託証券への投資を通じて、米ドル建てのバンクローン（貸付債権）、公社債等を実質的な投資を行い、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。また、当該外国投資信託への投資を通じて、実質的な保有外貨建て資産に対し、米ドル売り、円買いの為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。なお、証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券への投資も行います。投資信託証券への運用の指図に関する権限は、ピムコジャパンリミテッドに委託します。
主要投資対象	<p>■当ファンド ピムコ バミューダ バンクローン ファンド A – クラス Y（JPY）およびマネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>■ピムコ バミューダ バンクローン ファンド A – クラス Y（JPY） ピムコ バミューダ バンクローン ファンド（M）への投資を通じて、米ドル建てのバンクローン、債券およびそれらの派生商品等を主要投資対象とします。</p> <p>■マネー・マーケット・マザーファンド わが国の公社債等を主要投資対象とします。外貨建資産への投資は行いません。</p>
運用方法	米ドル建てのバンクローン（貸付債権）、公社債等を実質的な主要投資対象とし、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。原則として、配当等収益や分配対象額の水準等を考慮し、継続的に分配することをめざします。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。また、分配金額は運用実績に応じて変動します。なお、第2計算期末までの間は、収益の分配は行いません。

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2018年10月から2023年9月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2023年10月11日現在

当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

ファンド名	第120期末 2023年10月11日
ピムコ バリュューダ バンクローン ファンド A - クラス Y (JPY)	99.4%
マネー・マーケット・マザーファンド	0.1%

※比率は当ファンドの純資産総額に対する各投資信託証券の評価額の割合です。

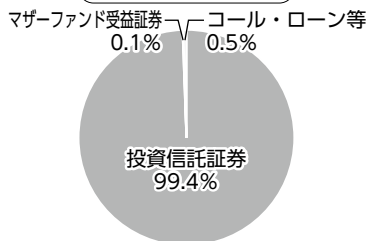
純資産等

項目	第115期末 2023年5月11日	第116期末 2023年6月12日	第117期末 2023年7月11日	第118期末 2023年8月14日	第119期末 2023年9月11日	第120期末 2023年10月11日
純資産総額 (円)	1,893,158,441	1,886,553,852	1,875,237,754	1,876,803,172	1,846,246,017	1,725,328,757
受益権口数 (口)	2,751,236,374	2,740,417,445	2,692,916,392	2,689,538,385	2,633,658,462	2,481,112,106
1万口当たり基準価額 (円)	6,881	6,884	6,964	6,978	7,010	6,954

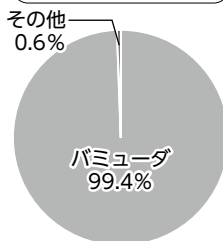
※当作成期間中(第115期~第120期)において追加設定元本は30,138,403円
同解約元本は 332,665,128円です。

種別構成等

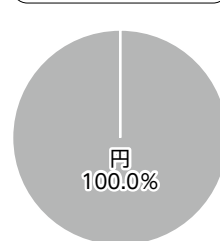
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余剰資金等と合せて運用しているものを含みます。

※【国・地域別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行地、発行通貨を表示しています。

2022年10月31日現在

組入上位ファンドの概要

▶ ピムコ バミューダ バンクローン ファンド A - クラス Y (JPY)

基準価額の推移

2021年10月31日～2022年10月31日



基準価額以外の開示情報につきましては、各通貨毎のクラス分けされたものがないため、「ピムコ バミューダ バンクローン ファンド (M)」ベースで表示しています。

1万口当たりの費用明細

2021年11月1日～2022年10月31日

1万口当たりの費用明細に相当する情報がないため、開示はできません。

▶ ピムコ バミューダ バンクローン ファンド (M)

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：218銘柄)

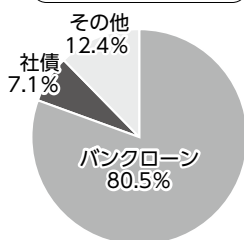
	銘柄	種類	業種/種別	比率(%)
1	PERATON CORP TL B 1L	バンクローン	各種金融	1.9
2	DIRECTV FINANCING LLC TL 1L	バンクローン	メディア	1.7
3	SOLERA TL B 1L	バンクローン	テクノロジー・ハードウェア・機器	1.7
4	REALPAGE INC TL B	バンクローン	テクノロジー・ハードウェア・機器	1.6
5	RESTAURANT BRANDS (1011778) TL B 1L USD	バンクローン	消費者サービス	1.6
6	COMMSCOPE INC TL B	バンクローン	テクノロジー・ハードウェア・機器	1.5
7	MCAFFEE TL B SOFR	バンクローン	テクノロジー・ハードウェア・機器	1.4
8	COTIVITI TL B 1L	バンクローン	耐久消費財・アパレル	1.4
9	AMSURG PIK 2L TL	バンクローン	ヘルスケア機器サービス	1.3
10	ANCESTRY COM TL 1L	バンクローン	テクノロジー・ハードウェア・機器	1.3

※比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。

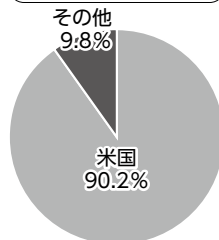
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

種別構成等

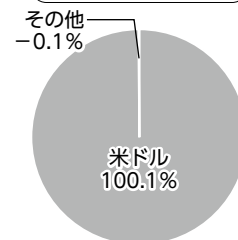
資産別配分



国別配分



通貨別配分



※比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

968469

2023年5月22日現在

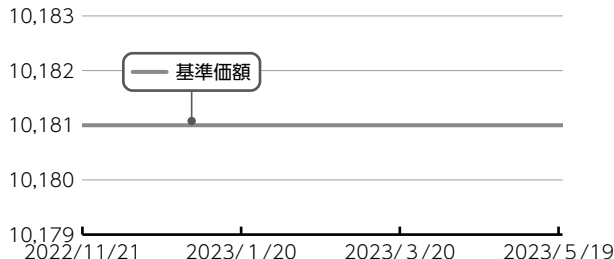
組入上位ファンドの概要

マネー・マーケット・マザーファンド

基準価額の推移

2022年11月21日～2023年5月22日

(円)



1万口当たりの費用明細

2022年11月22日～2023年5月22日

当期において費用が発生していないため、費用明細は作成していません。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：3銘柄)

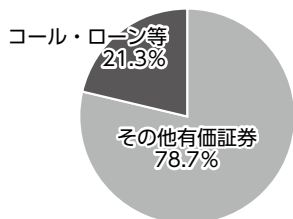
順位	銘柄	種類	国・地域	業種/種別	比率(%)
1	セントラルガラス 230523	其他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	68.4
2	グンゼ 230523	其他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	6.8
3	アミカスF 230523	其他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	3.4
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

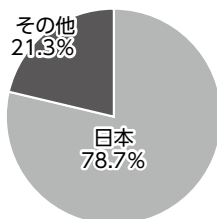
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

種別構成等

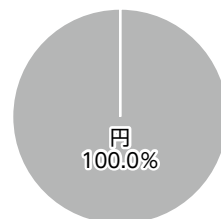
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とした他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

指数に関して

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

●東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

●MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)

MSCI コクサイ・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●NOMURA-BPI (国債)

NOMURA-BPI (国債) とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI (総合) のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●FTSE世界国債インデックス (除く日本)

FTSE世界国債インデックス (除く日本) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。